

## テーマ：ICTを活用した子ども見守りサービス

所管課：こども青少年局保育・教育運営課

### 1 背景

- 1.1 多くの保育所等では、子どもの豊かな成長のため、園児を連れ、施設近隣の散歩や、公園等にて外遊び（園外活動）を実施している。園外活動時、置き去り・行方不明等を防止するため、各施設は引率者の目視による人数確認等を徹底しているが、様々な要因により、置き去り等が発生する危険性があり、不安を感じている。  
（事案例）
  - ・保育所等から出発時、人数確認をしたが、道中、園児が列を離れ見失う。
  - ・公園において植木等に隠れており、帰園後、園児がいないとことに気付く。
- 1.2 そこで、横浜市では、園外活動時の安全対策強化の一環として、「保育所等におけるICTを活用した子どもの見守りサービス導入支援事業」（補助事業）を実施している。
- 1.3 横浜市内の各施設に対して行ったアンケート（N=797施設）においても、園外活動時に活用できるICTを活用した見守り製品に対して、約70%の施設が「関心ある」と回答している。

### 2 課題

- 2.1 ICTを活用した子ども見守りサービスに対して、各施設の関心は高いものの、保育所等の実情に合わせて活用できる製品が少なく、有効な製品を導入できていない状況である。
- 2.2 保育所等で活用するためには以下のような点に考慮した製品であることが求められるため、既存製品の中からは各施設が選択しにくい状況にある。
  1. 園児（主に2～5歳）に装着することを考慮した形状、安全性、装着方法
  2. 少数の職員で多くの園児を見守ることを想定した製品
  3. 日によって異なる児童が利用するなど、保育所等の特性に合わせた対応が可能であること

### 3 想定される解決策

- 3.1 保育現場の実情に合った、使いやすい、ICTを活用した子ども見守り製品の開発を民間企業に促し、保育所等での導入・運用を推進する。
- 3.2 想定する製品のイメージ
  1. 園児に機器等を装着し、GPSやBluetooth等のICTを利用し、園外活動時に園児の位置や人数を確認できる製品
  2. 園児が一定の範囲を離れた場合等に、保育士に対し、アラート（通知・音等）で注意喚起できる製品など

## 4 実証実験で用いる製品・サービスに求める要件

## 4.1 必須とする要件

1. GPS や Bluetooth 等の ICT を利用し、園外活動時に園児の位置または人数を保育士が把握できること。
2. 園児が一定の範囲を離れた場合等に、保育士に対し、アラート（通知・音等）で注意喚起できること。
3. 保育士が利用することを前提とした製品・サービスであること。

## 4.2 希望する要件（※必ずしも必須ではないが、現場ニーズがある事項）

1. 保育現場の実情に合わせて、安心・安全・簡単に利用できること。  
以下、主なポイント。

装着性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士が園児に取り付けやすい</li> <li>・園児が自ら外しにくい（誤飲・誤食の恐れがあるため）</li> <li>・園児が遊んでいる間に取れない</li> <li>・装着していることを園児自身が気にならない</li> </ul>
安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破損、落下の場合に園児が触れる可能性を考慮する</li> <li>・園児が「誤飲」「誤食」する恐れがない</li> <li>・振り回す等により園児（自分・他人）がケガする恐れがない</li> </ul>
耐久性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の活動に耐えられること（水に触れることも考慮）</li> <li>・急な雨天等の場合にも使用できる</li> <li>・万が一、衣服等といっしょに洗ってしまっても壊れない</li> </ul>
操作性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの保育士・職員が利用しても簡単に操作できる（園児情報の設定方法、位置や人数の確認等）</li> <li>・保育士の携行品が少なくて済む</li> <li>・充電や不具合チェックなど含め、管理が容易である</li> <li>・園児から目を離す時間が少なくて済む</li> <li>・園外活動時の保育士業務において支障になりにくい（例、両手がふさがらない等）</li> <li>・園外活動に同行する職員間での情報を共有できる</li> </ul>
正確性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの位置又は人数を正確に把握できる</li> </ul>

2. 園外活動を行う公園の変更や装着する園児又はクラスが変更となった場合に、アラートエリアや装置にて把握する園児情報の再設定が容易、または再設定を行わずに使用できる製品であること。
3. 園児に装着する製品以外に保育士が携行また設置が必要な製品がある場合に、公園に備え付けられた設備等への取り付けが不要、または工具などを使わずに設置できる製品・サービスであること。

## 5 想定する実証実験

公募を行い、採択された提案を踏まえ実証実験を実施する。

## 5.1 時期

## 1. 2024年2月頃

準備ができ次第開始し、原則2月末までに終了するものとします（保育所等の体制によるため、3月に入るなど変動することがあります）

## 5.2 場所

## 1. 横浜市内の保育所等、及び公園

## 5.3 実験のモデルケース

## [共通事項]

- ・活動内容 園から公園へ徒歩（又はカート）にて移動し、公園内で活動後帰園
- ・活動回数 1日1回  
活動時間帯 午前中（移動時間を含み1.5時間～2時間程度）
- ・引率職員数 2名～3名（※活動場所等により増える可能性あり）

## [活動人数・場所の想定ケース]

No	活動クラス	園児数	活動場所	実験回数
1	3歳児	11名	大倉山公園梅林、大倉山記念館周辺 (横浜市港北区)	3回～5回
	5歳児	14名		
2	2歳児	22名	太尾南公園、太尾町第二公園 (横浜市港北区)	3回～5回
	4歳児	27名		
3	2～5歳児	各クラス 20名程度	しらとり台第四公園（横浜市青葉区）（※初回の実験は、園庭等園内で実施）	3回
4	2歳児	12名	反町公園、東横フラワー緑道（横浜市神奈川区）	3回～5回
	3歳児	20名		
	4歳児	13名		

※ 上記想定ケースにおける内容は現時点の想定ケースであり、事業者決定後、施設と調整し、変更になる場合があります。

※ 活動時の状況（天候や他園とのバッティング等）により活動場所を変えるため、ご希望の場所で実験ができるとは限りません。

※ 実験回数は目安です。

## 5.4 検証事項

1. 保育現場での実活用において、上述の「4 実証実験で用いる製品・サービスに求める要件」をどの程度満たせるか
2. 保育現場で継続運用する際に想定される課題・改善点
3. 導入・運用における負担の内容や程度（コスト、管理作業等）

## 5.5 実証実験の進め方

## 1. 協定締結後の想定する進め方は下記。

ステップ	実施内容	主担当
実験前	実証実験の実施計画の作成	採択事業者
	協力頂く保育園・公園等との調整	横浜市
	当該製品の内容、実験の進め方等を、協力頂く保育園や保護者など関係者に説明	採択事業者
	当該製品を準備（設置・装着 等）しリハーサル	採択事業者
実験中	実際に園外活動を行う中で当該製品を活用	保育園
	必要に応じて当該製品の活用をサポート	採択事業者
	観察し検証事項の確認	採択事業者
実験後	保育士へのアンケート及びインタビュー	採択事業者
	検証事項の分析・考察	採択事業者
	実験結果報告書の作成	採択事業者
	実証実験結果の評価	横浜市

※採択事業者は横浜市と定期的に協議の上、業務遂行すること。

## 6 採択決定後の留意事項

- 6.1 公募内容の審査後、採択された提案者と協議を進め、実証実験の実施に関する協定を締結する
- 6.2 費用負担については、ソリューション提案募集要項・協定案を参照のこと
- 6.3 成果及び権利については、協定案を参照のこと

※ 本仕様書に記載した内容は、ソリューション提案募集に向けたワーキングでの検討結果を元に横浜市にて想定した仮説であり、その背景や課題などの趣旨に合致するものであれば、提示した解決策、希望する要件、実証実験の内容に限らず、提案者の自由な発想の提案を期待する。